



六月の俳句

(2 0 2 2 / 0 6)

た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句	目 次
10 〈	6 〈	1 〈	

6月の旧暦（陰暦）の別名一覧

「鳴雷月（なるかみづき）」・「風待月（かぜまちづき）」・「松風月（まつかぜづき）」・「青水無月（あおみなづき）」・「涼暮月（すずくれづき）」・「夏越の月（なごしのつき）」・「蟬の羽月（せみのはづき）」・「常夏月（とこなづき）」・「水張月（みずはりづき）」

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

下着買う余命を意識更衣
それぞれにそれぞれありて竹落葉

未央柳無情の雨にしなだるる
柿の花落ちて初めて気づかれて

雨上がり定家葛や朝散歩
あの世でも友になれるか墓

良き名前気ままに生きる酔仙翁

雨の闇輝くように山法師
山法師幾分優しく紅おびる
税務大学校ゼミの教室アマリリス

一人しか通れぬ路地の十葉や
十葉も日差しを恋し路地の闇
十葉の才気と狂気荒れる闇
十葉の白十字こそあやしけり



雨の日にどくだみ摘んでお風呂かな
どくだみは花の白さにこだわりし
十薬はあまた咲けども我は闇
売り出し中団地の空き屋十薬や

群れていて蛍はぶつかることもなく
蛍袋そこに咲いても蛍こず

コロナなど吾は無縁とかたつむり
くちなしの真白もいずれ綻びて
くちなしと白さを競う京舞妓

小判草偽金作り罪はなし
小判草飾りてひとときお金持ち
数千両玄関飾る小判草
小判草格差無縁の壺万両
日本の雑草豊か小判草



公園に転がるままの実梅かな

紫陽花や雨雨降れと空見上げ
逆輸入豪華絢爛紫陽花や
死の話紫陽花咲いて人は死す

この墓を継ぐ人さがす栗の花
栗の花匂いに歪む人もいて

茄子の花些細なことにこだわらず

我が背より高く伸びたる百合の花
ハイブリッドゴージャス競う百合の花
地下鉄も時に地上に夏至の雨

レンズには入りきれない水芭蕉
苔の花彼らの宇宙星あるか



しとしとと梅雨しとしとと庭の鉢
リベラル派現実見つめ梅雨の雨
買いだめし何はともあれ梅雨籠り
インターネット吾を支える梅雨籠り
温暖化季語の見直し梅雨寒や

梅雨雨もゲリラ豪雨に変身し
梅雨続き赤羽朝酒一人酒
梅雨続く傘を斜めにかわす路地
ランドリー満員御礼梅雨深し
梅雨曇り血圧高く葉飲む
梅雨曇り三密避けて墓地散歩
梅雨なれど時に綺麗な風が吹く
荒梅雨や寝床で好きな演歌など
のうぜんの花に埋もれし表札や
のうぜんも雨に打たれて花落とし

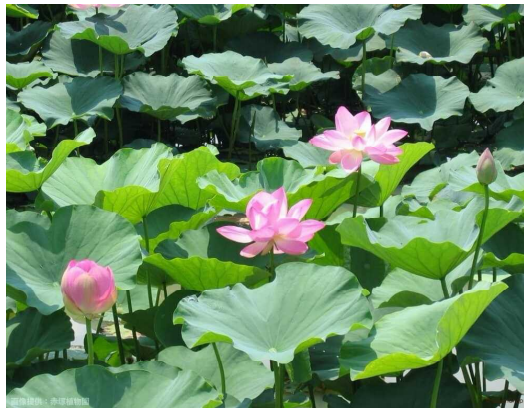


五千種も誰が育てた花菖蒲
高低はあれどそれぞれ花菖蒲
ペトリコール雨粒たく花菖蒲
強き日はやはり苦手の花菖蒲

梅雨空に気高く紫君子蘭

バレリーナごときに舞うや舞妃蓮
ぽんと咲き静かに散りし蓮の花
重力に逆らい空へ蓮開く

夏越かな無宗教などさておいて
雀たち茅の輪突つ切り祈願かな



モーロク俳句

モーロクしはかなさ強く沙羅の花
モーロクし諸行無常の沙羅の花
沙羅咲いて落ちてモーロク身にしみる

庭に咲く下野愛しモーロクす
草茂るモーロクすれど考える

モーロクし人のうれしさ合歡の花
モーロクし重たき心合歡の花

モーロクし仲良くなりて家蜘蛛と
モーロクしされど髭剃り雨蛙

モーロクし溺れるごとく金魚草
モーロクの人も受け入れアマリリス



モーロクしニゲラとゲリラ区別なし
モーロクし時の日なれど時忘れ

眠たげなモーロクばかり燕子花
モーロクし少し斜めに杜若

色あせた紫陽花花にモーロクす
紫陽花が咲けどモーロク死の話
モーロクし鍵締め忘れ額が咲く

モーロクし余生投げだし栗の花
モーロクしお金はないが小判草

くちなしの花が開きてモーロクす
くちなしやモーロク進み無縁塚

モーロクし見習いたい立葵



モ一ロクしされど日々あり花あふち

モ一ロクし毒も消えたり螢の夜
螢の夜あの世が近くモ一ロクし

モ一ロクし無常迅速実梅落つ
梅は実に吾はモ一ロクぶつきらぼう
モ一ロクし羽ばたかずして実梅落つ

モ一ロクし生きるつらさの梅雨寒や
モ一ロクし梅雨の重さに暮れ惑う
梅雨雨にモ一ロク頭霞みたる
モ一ロクし梅雨に沈みて溺れけり

モ一ロクし夏至の日暮れもまた淋し
なまめかし我はモ一ロク未央柳

モ一ロクし急ぐことなく心太



モーロクし心も冷えて心太
モーロクしつるり流るる心太
モーロクしやややしきこと心太

ひたひたとモーロク深し釣忍
雷鳴もモーロクすれば耳遠く

十薬の魔物あやしくモーロクス
モーロクスし十薬の花ひやかにかに

モーロクスしこれから勝負花菖蒲
文字摺や儂さを知りモーロクス

モーロクスし夏越の袂目を回し
モーロクスし茅の輪をくぐるに念仏を
モーロクスし茅の輪何度もくぐりけり



たべもの俳句

朝がゆに卵落として更衣
虹消えてちくわの穴に胡瓜かな

牛すねを塩とこしようにでビール煮に
老夫婦以心伝心心太

十薬の新葉天ぷらこの魔物
定食の鰯フライこそ王道で

夏野菜チキンカレーが香りけり
盛りそばに穴子天ぷら天せい

連なりて誰も求めず枇杷小粒
茄子素麺茄子とあぶらげ茄子の紺



皿飾る食べて毒消し花穂紫蘇
さくらんぼ格差拡大資本主義

梅雨長しもつちりハフハフ水餃子
ジャズ流し切り子グラスの冷やし酒

香り立つミョウガとオクラホイール焼き
くるくると回すたこ焼き梅雨に入り

梅雨に入る煮物濃い口あんばいを
梅雨に入る少し辛目に煮物かな

ゆで卵つるりつるりと梅雨に入る
梅雨に入るうどんにたつぷり七味ふる

外は梅雨濃い珈琲とチョコレート
父の日は特上刺身の夕ご飯



夏至の日の副菜まずは酢の物で
夏至の日の辛口カレー大盛りで

梅仕事酒に馴染せ梅酒かな
ともかくポテトチップス梅雨籠り

ズッキーニ大胆半割りステーキに
梅雨なれど昭和漂う町中華

梅雨晴れ間ビルの屋上駅弁で
豚もやし辛味噌ラーメン梅雨深し

海老茹でて夏サラダなりマヨネーズ
夏野菜味を引き締めトマト煮に



